

東北関東震災支援 NGO 情報交換会（第3回）

日時：2011年3月28日（月）15時～17時

場所：早稲田奉仕園 6F スカイルーム

出席者：出席者リスト参照

司会：JANIC 事務局長（山口）

議事録

資料の確認

会議室（6ヶ月）の提供：Wesley Center 様のご好意で AVACO ビルの6Fを会議室として使えるようになった。

1. JANIC からの情報提供

1-1 JANIC/JPF 共同仙台事務所の開設

現地で NGO の支援を行うということで、まず仙台に事務所を開設する。仙台事務局は、JICA 東北の事務所の貸し会議室を使い JANIC/JPF の共同オフィスとして設立。現場レベルでの NGO のコーディネーション、地元の自治体との連携、海外からの支援のコーディネーション、NPO との連携、国連機関との連絡調整が主な目的。

1-2 東日本大震災支援全国ネットワーク（シビルネット）設立総会（3月30日）

NPO、社協、中央共同募金会、NGO などが多数参加するネットワークの設立をする（3月30日）。JANIC は JPF といっしょに国際タスクフォースのリーダーを担っている。その他のタスクフォースが8つほど立ち上がっている。詳細は WEB を参照。 <http://www.jpn-civil.net/>

2. JANIC 現地視察報告（田島） （資料添付）

（救援に焦点を置いた報告）

石巻：人口17万人（1市6町が合併）

避難民：避難2万人

在宅：2-4万人

在宅の人の数は、全部の家を訪問していないので実態がわからずこの数に幅がある。

海沿いの3町は、壊滅的なダメージ

・最上長、雄勝町、牡鹿町に関しては、大きな被害を受けたが、昔ながらのコミュニティーが息づいていて地域の自立や自給の意思が高く、避難所も自主的に運営されていて比較的安定している。

旧石巻市は孤立家庭や在宅避難者も多く対応し切れていない。在宅に避難している人たちへの配給が課題。また、直接的被害を免れた内陸部の河北町（かほくちょう）、桃生町（ものうちょう）、河南町（かなんちょう）も、燃料不足と交通網の遮断、ライフラインの復旧の遅れから、物資不足による間接的災害が発生している。

輸送・兵站にかかる大動脈は瓦礫が撤去されて確保されているが、それ以外の部分の瓦礫はほ

とんど手つかず状態である。全壊を免れた家屋や建物も一階、二階部分に泥（ヘドロ）が集積したまま放置されており、衛生上の脅威ともなっている。電気はほとんどの地区で復旧したが水道の復旧は極めて限られた地域に留まっている。携帯電話は 3/21 に復旧、固定電話は 3/23 に復旧した。

数少ない海外 NGO としては、カナダの Canadian Medical Assistant Team (CMAT) が石巻に入ったが診療に回してもらっていない。(詳細はレポートにて)

(救援組織)

市の対策本部自衛隊と自衛隊 市庁舎内

市の社協災害ボランティアセンター(VC)が 3 月 1 5 日に石巻専修大学内に開設した。(先週末には多数集まり始めた)

- ・ 2 5 団体以上が入っている。
- ・ 中核的・大人数で入っているのは Make the Heaven (めぐみ Japan) Peace Boat、両団体ともボランティアセンターの運営も含めて活躍中。
- ・ VC は 炊き出し、物資配布、医療、QOL 調査の 4 分野で活動を行っている。毎日行われている NGO/NPO 調整会議でもこの 4 つの分野の分科会が行われている
- ・ 炊き出しと物資配布(配給)は、数がまとまって大量なものは大きな避難所等を対象として自衛隊が受け持っている。一方、小規模な避難所や在宅避難者向けには NGO が配給・配布している。QOL 調査は Make the Heaven が担当していて、在宅避難者を主に対象として、個別世帯を訪問して物資配布する際に所定の質問票を用いて行っている(彼らはこれを「ローラー作戦」と呼んでいる)。ローラー作戦は、定型のフォーマットを使って地図情報とかに落とし込んでいる。

(課題)

組織の問題

- ・ 本来なら社協が担うべき VC の運営の多くを NGO が肩代わりしている。

二次災害(感染症の蔓延)

- ・ 避難所のみならず、被災地全体で感染症の蔓延の脅威が高まってきている。これは、**水がないために**、泥掃き・清掃が完全にできない、風呂に入れないなど(自衛隊が移動式の風呂 2 台を巡回させているがこれも大きな避難所中心で、大多数の人は被災後一度も風呂に入っていない)衛生的な措置が講じられないからだ。人手と水がいる。
- ・ 対処療法として現在必要性が高いのは、**新品の下着、おむつ(赤ちゃん用と大人用の両方)、整理ナブキン、爪切り**などだ(ウェットティッシュや洗浄用アルコール等はまだ足りているようであった)。水の供給が増えるにつれて、掃除用の洗剤や掃除道具(スコップ、手押し車なども含む)はより大量に必要になると推察される。

物流と燃料

- ・ 物流が滞り町全体に物資がない。
- ・ 物理的被害が軽微であった世帯でも食料・食材、おむつ、生理用品、下着(水がないため洗濯できないから)などの消耗品が手に入らない。
- ・ 在宅避難者は避難所と違い配給が受けられなかったのである意味ではより困窮している。

- ・ 動脈幹線道路はほぼ復旧したので、あとは燃料問題が解決して物流が改善すれば、物資の欠乏はかなり解消されると見込まれる。
- ・ 燃料不足は、物資を運べない、配布できない、ボランティアを輸送できない、連れてこられないなど、救援側にも深刻な脅威となっている。特に、交通規制の撤廃に伴い緊急車両の指定が意味をなさなくなったことから、優先的に燃料を入手できる特権が失われたことは痛い。

(対策)

- ・ 燃料と水の確保、水道が復旧しない限り抜本的な対策がない
- ・ マンパワーは非常に必要（組織運営支援ボランティア、情報ボランティア、清掃ボランティア（泥はけ、掃除）の3つの種別）

(その他の課題)

Right-based approach の NGO の早期参加促進

- ・ 東北の人びとは暖かく、人柄も良いが、それを幻想化してはならない。石巻でも日が暮れると盗難などの犯罪が既に発生しているため、配給は基本的に日の高いうちにしか行わないように各団体は注意している。
- ・ 状況がある程度落ち着いてからよりもこうした混乱期こそ、社会的弱者が被害者になるリスクは高く、その保護や支援のニーズも高い。なるべく早く Right-based approach を得意とする NGO の参入が望まれる。

中央・県レベルの調整（支援）事務所の役割

今回の現場の救援関係者への聞き取りでは、以下のような要望が聞かれた：

- 物資の配給
- 需要と供給のマッチング
- 現場の組織強化とマンパワー支援
- 規制の撤廃と救援がスムーズに行われる制度上のファシリテーション（例：燃料、飲料水）

3. シャプラニールとしていわき市に視察に行った JANIC の大橋理事長より追加情報

- ・ シャプラニールはいわき市で活動
- ・ 店やガソリンスタンドが開くようになってきた
- ・ 避難所はモノが届いているが、自宅避難者にはあまりいっていない。
- ・ 市が調整して自宅避難者をまわって確認作業を行っている
- ・ 原発の問題があるので他の NGO があまり入っていない。
- ・ 市のほうも落ち着かない。

JANIC の視察報告についての質問

質問者：チャイルド・ファンド・ジャパン

問い：海外のメディアから連絡があり、メディア対応が求められている。JANIC はそれをするのか。現地の NGO を紹介してもらえないかという相談がある。

回答（JANIC）：海外 NGO の支援マッチングなどの対応はしているが、メディアの対応は特にしていない。仙台オフィスは、メディア対応をメインにはしないが、必要があればやる。石巻に

関しては、メディア対応は社協がやると決めている。

質問者：ピースウィンズ・ジャパン

問い：JPF と JANIC 2 団体の仕事分担を教えてください。

- ・ 回答 (JANIC)： JPF は、国連機関、海外 NGO の連絡調整役で、JANIC は、JANIC の会員団体の活動への支援、地元の団体との連携などが中心。しかし、JPF と JANIC のメンバー団体はほとんど同じ。JANIC ではコーディネーションの役割を担おうとしているが、すでにやっているところがあれば、それをサポートする。ドナーと団体などのマッチング業をしようと思っている。仙台オフィスの業務内容はやってみないと正直なところわからない。

(JPF/JANIC 仙台オフィスのメンバー紹介)

- ・ 震災担当コーディネーター (田島)、仙台オフィスコーディネーター (一瀬)

4 . 各団体からの活動報告と情報提供

ここに集まっているのは、NGO だけでなく企業や財団なども集まっている。何か提供できるなどの情報があればぜひお願いします。

(JVC) 清水

- ・ 気仙沼市の社協がやるボランティアセンターに人員を送る
- ・ オフィス機能に必要な OA 機器の提供
- ・ 一関に拠点置いてそこから動く

(味の素)

- ・ 義援金などの活動をしている。
- ・ どうしたらマンパワーなどを提供できるのか検討中。
- ・ 長期のサポートとして何ができるのかを考えるために本日出席している。

(世界の医療団)

- ・ 明日出発する。支援場所については厚生労働省と確認中。メンタル・ヘルスケアなど医療関係者 6 名 (5 名日本人) 派遣。フランスの医師 1 人は、3 週間ぐらいの滞在予定

(Janet (日本障害分野 NGO 連絡会))

- ・ さまざまな障害団体が参加しているネットワーク。障害者支援本部を 3 月 18 日に立ち上げた。支援センターを 30 日から置く予定。
- ・ 情報センターの DIR で逐次活動を報告している。
- ・ 日本語と英語
- ・ サポートインフォメーションというかたちで英語で有益な情報を提供。
- ・ 海外に対してこういう状況だという情報を発信している。ニュースレターなど。

(ワールドヴィジョンジャパン)

- ・ 13 日から派遣 (11 名のスタッフが宮城県の南三陸で活動している)
- ・ 消耗品、生活物資を送っている。南三陸でチャイルドフレンドリースペースを設立

- ・ 現地にオフィスを置くことを検討している。

(日本 NGO ネットワーク)

- ・ 普段はインドネシアで活動している。中長期で何かできないかを探りたい

(トヨタ財団)

- ・ 緊急支援はやっていないが、中・長期的な支援を考えている。ここでそのアイデアを勉強している。

(ウェスレー・センター)

- ・ アメリカのメソジスト協会関連の組織。
- ・ 被災した外国人労働者の支援を行っており、フィリピンの労働者が短期で住める場所を提供。
- ・ キリスト教、仙台の青葉区の錦町に関係団体からスタッフを送って活動を開始している。
- ・ 20日すぎから人を送っている

(国際開発研究者協会)

- ・ 国際開発に関係した専門家が必要な場合には連絡してくれれば役にたてるかもしれない。

(チャイルド・ファンド・ジャパン)

- ・ 食材が不足していると聞いたので食料をピースボートに渡している
- ・ 子供への文房具配布、大人への子供アプローチの手引書など

(大和証券)

- ・ 中長期的にどうかかわっていくのかを探りたい
- ・ 10年にわたって支援している例もある。
- ・ 情報収集にきた

(沖電気)

- ・ 義援金を検討中
- ・ 福島地区に関連企業で1000人が避難している。
- ・ 社内のグループ社員からカンパを集めてお見舞金として出したい。

(AAR)

- ・ 緊急支援チーム(10名前後)宮城県、岩手県の高齢者施設などで物資配布を行っている。高齢化施設などは規模が小さくて、災害支援本部なども把握できていないところをカバーしている。
- ・ 今後1ヶ月間は物資の配布を続ける
- ・ 施設の小規模修理をしたい。

(WCRP)

- ・ 仏教、キリスト教、イスラム教など宗派を超えた宗教者のネットワーク。
- ・ ボランティア支援もしたい

(庭野平和団体)

- ・ 募金を募って NGO などに活動支援として流したい

(明治学院大学)

- ・ Direct Relief, Japan American Citizens League 日本の団体で政府などからお金が回っていない団体を支援してゆきたい

(SONY)

- ・ リリースを参照
- ・ 阪神大震災でボランティア支援を行った(100人以上の規模でボランティアを派遣した)。今回もそのようにボランティアを派遣したい。パートナーを探している
- ・ 宮城県に工場があるのでそこでも活動がしたい。それ以外でもいい。社員がボランティアとして活用してほしい。
- ・ ビデオ・DVDなどで避難所の人々の心のケアを考えているので、パートナーを探している。

(アフリカ日本協議会、「動く 動かす」)

- ・ 同団体では活動をしていないが、情報を集めている。海外で MDGs をやっている団体と国内の団体とつなぎたい。

(シャプラニール)

- ・ 福島県、いわき市。地域のパートナーを探して、現地に足りていないものを提供
- ・ いわき市は原発の問題があって物資が入ってきていない。
- ・ 地元の NGO を通して物資配布を行った。ガソリンがないのでむずかしい
- ・ 区長などががんばっている。
- ・ 岩手では NPO/NGO の調整会議をしているが、いわきでは NPO/NGO が入っていないので、調整会議もしていない。地元の NPO と何ができるのを探っている。

(個人)

- ・ 自力で活動はしていないが、日本で義援金を役立たせてほしい

(BAJ)

- ・ 北茨城市に明日入って今後のことを検討
- ・ メンバーと連絡をしながら今度の活動を決める

(CSO ネットワーク)

- ・ ネットワークに参加して情報交換をしてゆきたい。

(ピースウィンズジャパン)

- ・ 現在 5 名(気仙沼、陸前高田、、、)食料等の支援
- ・ 大工に仮設トレイ、お風呂などを設置する
- ・ 心のケアも考えてゆきたい

(デベックス)

- ・ 活動情報をウェブで配信
- ・ ネットワークで20名からボランティアの声がでてきている。人材面で協力したい。

(JACL)

- ・ 日系アメリカ人の組織。
- ・ 日系アメリカ人が今回の震災に関して募金を募り、協力したいと思っている。

(Ameri Care)

- ・ コネチカト州に本部。25年の歴史を持つ。医療支援。被災地に医療支援をしたい。日本の正式なパートナーが決まっていない。
- ・ コンテナをひとつ届けているが、今後のパートナーシップを探している。

(難民支援協会)

- ・ 関東近郊の外国人に情報提供
- ・ 石巻に入ってリーガルエイドの支援をやっていきたい。

(テル)

- ・ 40年間くらい在日外国人に対してメンタルヘルスの提供
- ・ 英語がメインの言語
- ・ 子供サポートを中心に、通常はボランティアで活動をしている
- ・ 今自分たちでできる事は、日本語が話せるスタッフが沢山いるわけではないが、トレーナーを増やしてメンタルケアのカウンセリングをしてゆきたい。
- ・ WHOなどのメンタルヘルスに関する災害時のガイドラインを日本語訳にしている。
- ・ SKypeを使ってトレーニング

(International Medical Corp)

- ・ 災害などの緊急支援を長年やっており、パートナーを探している。
- ・ 宮城に行っているチームもある。PCを10台あげたい

(RIJ)

- ・ 募金を集めている
- ・ 大学生などが活動を模索している。

(Plan Japan)

- ・ 生活用品の配布
- ・ 震災支援室を立ち上げて、中長期的に活動予定
- ・ 今までは海外で子供のケアをしている。

(地球の友と歩む会)

- ・ 名取にある会員に支援を具体的にやってくれという要求があった。物資提供を検討中

- ・ みなさんの要望を聞きながら今後の方針を考えたい

(オイスカ)

- ・ スタッフが仙台入り
- ・ 物資の提供
- ・ フィリピン大使館に毛布の提供
- ・ 4月中旬に心のケアを中心に活動をしたいが、まだ流動的
- ・ 仙台市・松島町、茨城北部を考えているがまだ決まっていない。
- ・ 中・長期的なことは考えている

JHP (学校を作る会)

- ・ 募金の呼びかけ
- ・ 19日に石巻で物資配布
- ・ 南三陸町で調査
- ・ 物資が足りないが、マンパワーが大変
- ・ 年間2回、カンボジアに大学生を送っている。その経験を使ってボランティアを送りたい

(アーユス)

- ・ 募金(4団体に活動支援を送った)
- ・ 団体支援を続けていく
- ・ ガソリン、トラックの提供、物資の提供
- ・ 支援団体を通じて現地に入ることも考えている

(SVA)

- ・ 気仙沼を拠点
- ・ 災害ボランティアセンターのサポート
- ・ 物資の配布、炊き出し

(博報堂)

- ・ 得意先が支援場所を探している
- ・ 日赤だけでなく、JANICのまとめて募金などNGOへの支援を勧めている。

(Give2Asia)

- ・ 米国のファンドで、助成先を探している。分野としては年寄りのニーズなど。

(味の素)

- ・ これからの支援活動を検討中

(GLM Institute)

- ・ 大船渡に視察を兼ねた物資援助
- ・ 語学力を備えた人材が集まっている

(ピースボート)

- ・ 石巻で活動を行っている
- ・ 先週の土曜日から 50 名のボランティアを送っている
- ・ 10 人のスタッフを送った
- ・ 今後は 100 名のボランティアを送ってゆく
- ・ 現地ニーズは、石巻ボランティアセンターと毎日ミーティングを行ってすり合わせ、市の対策委員会とも会合を持っている

(シマンテック)

- ・ PC200 台を避難所、学校などに設置したい。協力してくれるパートナーを探している。

ありがとうございました。本日は、支援を必要としている NGO と、物資を提供したい、人材を提供したい、資金を提供したいという企業やドナーがこの場に来ている。この会が終わってから、マッチングを希望する人は集まって個別に話をしてほしい。

JANIC が行っている「まとめて募金」は震災支援をしている団体に平等に配分してゆく。また、それぞれの団体の方々からこういう活動をしたい、今必要なものなどの情報と、資金援助などの情報をマッチングをしてゆきたい。ただし、サポート募金を除いて、JANIC が資金を受けてそれを審査、助成するという事はやらない。

5. 困っていること、NGO が共同で解決してゆきたいこと

内閣府にある災害ボランティア連携室を通して内閣府へ提案したり、シビルネットワークを通して、声をあげてゆきたい

問い：今朝の NHK でプロフェッショナルの宅配便をうまく使用してやっている、という話があった。地元の宅配便業者が今まで自分の行っていた地区を担当する、とあった。宅配業者との連携はどんな事が考えられるか聞きたい。

答え (JANIC)：都道府県で業者を指定して、各県の拠点に送られた物資を市町村レベルや避難所に配布する。政府の物資の流れをまず固めたいという意図。そこには NGO は入っていない。もし、政府の物資を運びたいのであれば、それもできるのではないか。

答え (大橋)：ボランティア連携室にこの声を伝えます。

問い：NPO 法に基づき、決算業務などの期限が迫ってきているが、今は災害支援に忙しくは遅れがち、それを伸ばしてもらうことはできないのか。

答え：別件で外務省に問い合わせ、期限を延ばす交渉をしたが、外務省からは団体が被災地にあつて業務が不可能であれば認められるが、東京に事務所がある場合はそういうのは認められない、といわれたので、むずかしいのでは。

答え (大橋)：ボランティア連携室にこの声を伝えます。

(ピースボート) 合田

- ・ 炊き出しを 2000 食 (PB) 実施しているが 5000 食まではできる。食料があればぜひご提供ください。
- ・ ガソリンの問題が解決していない。緊急車両の発行はもうできない。緊急証明書があれば、給油してくれるような場所もあるので、緊急車両証明書がほしい。

答え (大橋): ボランティア連携室にこの声を伝えます。

(博報堂)

- ・ サポート募金をすすめているが、やはり活動が報告にみえてきたほうがいい。今緊急支援だけでなく、今後も使ってゆく資金となるが、その部分は明確になるのか。まだ、お金は集めたほうがいいのか。

答え: ドナーからするとお金はすぐに使ってほしいと思っているが、NGO 側としては、中長期的にお金を使えるようにする必要がある。寄付者の期待を裏切らず、集めてゆきたい。

コメント: 被災している人たちから、ボランティアを募るのはいいアイデア。

南三陸では保育士、看護師、などが自主的に子どものケアなどをしている。

田島さんのレポートの人手の確保について

- ・ 東京・関西からも人が送れる。宮城県では現地の NGO ローカルネットワークが立ち上がっている。2つの団体が ML を使って情報シェアをしている。大きな団体と福祉団体が混じっている。その情報共有はとてもよい。仙台周辺。
- ・ 現地のニーズを拾ってそれを東京で発信している。東京でファンディングを考えているところに情報がいくように。
- ・ 物流に関しては、Google Document でシェアしている。

問い: 石巻市では毎日コーディネーションミーティングが行われる。他の町ではどうなのか。

本当は社協がやるべきなのだが、彼らも被災しているし、他のことで精一杯。なので、ピースボートのようにコーディネーションの手伝いがないとそういうこともできない。

問い: 被災地の寄付者に関して、お見舞いや寄付を中止しているのか。

プランジャパンは、電話で被災地の寄付者の安否確認をすると共に、自動引き落としになっている寄付は東北地方に関しては止めた。

シャプラニールは、東北の人々の自動引き落としをとめた。

World Vision Japan は、状況を確認している

問い: どの団体が寄付控除の対象になるのか。

NPO 法人は認定 NPO の資格がないと寄付控除が受けられない。また、旧財団、社団は公益財団法人、公益社団法人のみ寄付控除が受けられる。

中央募金会が4月から始める NPO・ボランティア活動支援募金は、法人、個人それぞれ寄付控除を受けられる。集まったお金は、上限原則 300 万円で、現地で活動する団体に対して助成。

海外からの募金もうけられるようにしてほしい。

政府との連携（明治大学）

NGO ができない専門分野をきちんとアイデンティファイして、必要なものであればそれを政府に要請してゆくべき。

内閣府に災害ボランティア連携室があり、NGO/NPO からの要望も聞いている。

（問い）避難所での炊き出しについて

自衛隊だけでは、炊き出しが全部できないので、NGO・NPO でやってくれるところがないかという打診がある。食材や必要なものを配ることはやっていると思うが、実際の炊き出しを NGO ができないか？

石巻の避難所だけで 170 ヶ所ある。それを全てカバーするのは無理

（問い）ルーテル教会から、倉庫機能に使う資金提供という話があるが、仙台に倉庫を置くと便利か？メリットはあるか？

倉庫に何がいくつあるという情報があれば、便利。在庫管理。仕分けができていればいい。

東京から来て直接行ったほうがいいのではないか。

事務所、スタッフの宿泊設備のほうがいい。東京から持って行って、そこから配ったほうがいい。事務所機能をどこかにおかしてもらえるといい。

宮城で拠点を置こうと思っている NGO

- ・ ピースボート（石巻） 仙台、
- ・ JGF（決まっている宮城市）
- ・ SHARE（気仙沼：アパートなどを探している）
- ・ SVA（気仙沼、スタッフ宿泊施設、拠点立上げ調整中）
- ・ 難民を助ける会（仙台市、めぼしはつけている）

次回の日程 4月4日（16:00-18:00）

(別紙)

出席者名簿

	団体名	氏名(敬称略)
1	世界の医療団	エフテル プリュン
2	味の素株式会社	寺内 奈津子
3	味の素株式会社	後藤 隆穂
4	日本インドネシア NGO ネットワーク (JANNI)	松野明久
5	チャイルド・ファンド・ジャパン	細井なな
6	大和証券グループ本社	河口真理子
7	ジューエルエム・インスティテュート	田中 絢也
8	アジアキリスト教教育基金 (ACEF)	中川英明
9	JHP・学校をつくる会	中込祥高
10	国際開発研究者協会(SRID)会員	高瀬国雄
11	デベックス日本支社	長谷川翠
12	デベックス日本支社	長光
13	公益財団法人 トヨタ財団	青尾 謙
14	JANNET 事務局の日本障害者リハビリテーション協会	野村美佐子
15	Wesley Foundation	仲摩信行
16	ソニー(株)CSR部	下川 寿代
17	(社)日本キリスト教海外医療協力会/JOCS	大江 浩
18	公益財団法人プラン・ジャパン	番場慎也
19	公益財団法人プラン・ジャパン	後藤亮
20	(財)世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会	木塚季代子
21	公益財団法人 庭野平和財団	仲野省吾
22	日本警察消防スポーツ連盟事務局	志澤 公一
23	沖電気	松本 伸一
24	特活)ブリッジ エーシア ジャパン	沼田京子
25	ピースウィンズ・ジャパン	柴田裕子
26	インターナショナルメディカルコープ	さがらゆうこ
27	インターナショナルメディカルコープ	ジョイス・ニール
28	テル	ささき
29	アークス仏教国際協力ネットワーク	岩見 充恵
30	公益財団法人 オイスカ	吉田俊通
31	公益財団法人 オイスカ	林久美子
32	ワールドビジョンジャパン	片山信彦
33	ワールドビジョンジャパン	蘇畑 光子
34	国際難民支援会(RIJ)	Jane Best
35	国際難民支援会(RIJ)	高橋 慶太

36	難民支援協会	篠山顕子
37	JACL (Japna American Citizens League)	Flyod Mori
38	Direct Relief	Brett Williams
39	Give2Asia	Sarajeon Rossitto
40	難民を助ける会 (AAR)	河野 洋
41	シャンティ国際ボランティア会	仲原 亜紀
42	SCO ネットワーク	長谷川 雅子
43	シャプラニール	内山 智子
44	LIGA LIFE	米山 敏裕
45	アフリカ日本協会	イナバ マサキ
46	Ameri Cares	Michelle Jackson
47	Ameri Cares	Tom Turley
48	JVC	清水 俊弘
49	明治学院大学	竹尾 茂樹
50	明治学院大学	平山 恵
51	明治学院大学	ヴィーシー アレキサンダー
52	明治学院大学	John Ino
53	(株)博報堂	中野 民夫
54	ピースポート	合田 茂
55	シェア(国際保険協力市民の会)	山本 裕子
56	JANIC	大橋、山口、田島、富野、津島